



発行日 2006年3月1日
 発行：宮城県民間非営利活動プラザ
 編集：NPO 法人社の伝言板ゆるる
 〒983-0851 宮城県仙台市宮城野区榴ヶ岡5
 TEL：022-256-0505
 FAX：022-256-0533
 E-mail：npo@miyagi-npo.gr.jp
 http://www.miyagi-npo.gr.jp/

「One to One」は、県内各地でのさまざまなNPO活動により、ひとひととが信頼でつながって、よりよい市民社会が形成されるようお願いを込めたニュースレターです。

NPOの情報発信をお手伝いします!

何らかの目的をもって活動している組織にとって、“情報”は、活動や団体の生死の鍵を握る重要な要素です。

プラザでは、2001年4月の開館以来、県内各地で活動するさまざまなNPOに向けて、行政や支援組織から発信されるNPO支援施策の紹介や助成金の公募情報などの提供を心がけてきました。その情報提供手段のひとつが、現在も運営中のWebサイト「みやぎNPO情報ネット」です。

おかげさまで、今年度だけでも訪問者数が17万を越え(1月末時点)年度末には20万に届く状況です。月平均17,000の訪問者数をカウントできることは、宮城のNPOに関する情報収集源として認知が進んだ証だと考えています。しかし、NPOにとっての“情報”は、収集するだけのものではありません。

現在、県内でも数多くのNPOが、もっと地域や社会を誰もが暮らしよいものにするために活動を重ね、成果をあげています。しかしその一方で、限られたマンパワーや資金をミッションに直結する支援や提言などの活動に集中せざるを得ず、より効果的な成果実現のために必要な、地域の個人や組織とつながりながらの活動が、思うようにできていないNPOが多いことも確かです。

個々の組織としては小規模なNPOが社会的な課題を解決していくためには、NPO同士の連携はもちろんのこと、地域の個人・企業・自治体との関係づくりも必須の取り組みと言えます。しかしそのためには、自分たちの団体が地域に顔の見える団体であることが必要です。

ボランティアにしる、資金や資材の協力にしる、活動が見え、信用できる団体だと思っからこそ、何らかの関

わりをもととするのだと考えれば、素性のよく分からない団体に対して協力を申し出る相手は存在しないことになります。

自分たちがどのような目的をもって、いかなる活動に取り組んでいるのか。そのことを広く知らせていくには、活動報告会の開催、チラシやニュースレターなどによる地域への周知など、

さまざまな方法があります。もし、インターネットによる情報発信を検討されるのであれば、「みやぎNPO情報ネット」は、きっと、みなさんのお役に立てるはずで

繰り返しになりますが、自分たちの存在を地域や社会に知らせずして、社会的な課題解決に貢献することは不可能です。ぜひ、もう一度、情報発信者の視点で「みやぎNPO情報ネット」をご覧になり、みなさんの団体の情報発信にお役立てください。



みやぎNPO情報ネット

<http://www.miyagi-npo.gr.jp>

春を前に、プラザは一足早く、 NPOのネットワークづくりが花盛り！

学習会

「介護保険制度の改正内容を知らう」

主催：福祉NPOネットワークみやぎ
日時：1月27日(金) 10:00～12:00

平成18年4月から、介護保険制度が大幅に改正されます。改正の焦点は現在の申請制から認可制の色合いが濃くなり、その施行においては、地方自治体の福祉施策が大きく影響するだろうことが予測されます。そこで、県と市の社会福祉協議会等のご後援をいただき、4つのNPO有志団体が実行委員となって、介護保険の制度改正を学ぶ学習会を企画いたしました。



1月27日(金)の学習会では、宮城県長寿社会政策課課長の佐々木清司氏より介護保険

の変更内容について、仙台市高齢企画課在宅支援係長の吉岐昇氏より仙台市における改正内容について説明していただきました。今回は第1回ということで、実行委員が重点学習項目を設定し、事前に参加希望者から寄せられた質問事項をまとめ、講師にそれを伝えて講義に盛り込んで頂く方法をとりました。重点学習項目は「地域密着型小規模多機能施設」「介護予防」「地域包括支援センター」の3項目で、参加者70名より多くの質問が出されました。

当日は自治体の方向性がまだ確定していない部分が多く、全ての質問への明確な回答は伺えませんでした。参加者からのアンケートにも「何とか概要がわかった」という声があった一方で「充分理解できなかった」との声も多く、これからの社会を揺るがす重要な制度変更にもかかわらず、利用者はもちろん、担い手も充分理解しないままに見切り発車していくことを、不安とともに実感した学習会でした。

今後は、この日に誕生した、福祉NPOネットワーク・みやぎに集った多様なNPOと共に、安心して、自分らしく暮らし続けることのできる地域づくりに向けて、NPOならではの地域社会への貢献とは何かを考えたり、NPOの介護力の向上と経営力の向上を図るため、情報交換や研修会および政策提言を行っていきたいと思います。

福祉NPOネットワーク・みやぎ
第1回学習会実行委員 中村祥子記

知的障がい者余暇活動支援 交流会 友だちたくさんつくりましょう2

主催：交流会実行委員会「たんぽぽグループ」
知的障害者余暇活動支援ネットワーク ゆらねっと
NPO法人福祉ネットABC
日時：2月25日(土) 13:30～16:00



知的障がいがある人たちの余暇充実を目的に、当事者、支援者、NPOの3者協働で、交流会「友だちたくさんつくりましょう2」が行われました。

全員が参加するボールリレーなどのウォーミングアップの後に、「スポーツ」「食事」「音楽」「おしゃべり」「ゲーム」の5つの分科会に分かれて、思い思いの時間を過ごしました。当然、初対面の人もいましたが、一緒に楽しい時間を過ごすことで、当事者同士はもちろん、当事者と支援者、あるいは、支援者同士の新たな出会いや交流が各会場で繰り広げられました。今後も、知的障がい者の余暇活動への取り組みの充実を呼びかけていくとともに、プラザ内の「レストランぴあ」などを会場に、余暇活動の機会を提供していくことが予定されています。



「NPO・O結サロン」は、NPOのみなさんがネットワークを広げるために企画・実施される事業に、プラザが共催して交流サロンを会場にお使いいただく取り組みです。1月～2月に開催された3つのサロンを紹介します。

みやぎNPOプラザ町内会 活動発表会

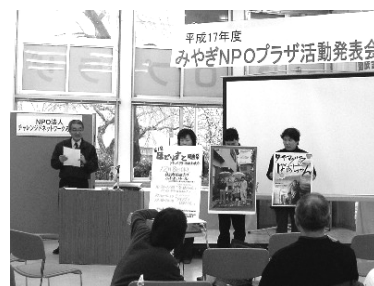
主催：みやぎNPOプラザ町内会

日時：2月26日(日) 13:00～16:00

プラザに事務所や店舗を構える団体は13団体。しかし、団体毎に活動の曜日や時間帯が異なるために、中には、毎日プラザを利用しているお互いに顔をあわせる機会のない団体もあります。相互の理解促進と、地域の人たちにNPOの活動について少しでも知っていただくとう始めた活動発表会も今回で4回目を迎えました。

当日発表したのは、急用で不参加の1団体をのぞく12団体。ポスターの利用や、ビデオ上映、パワーポイントによるプレゼンテーションなど、各団体毎に工夫を凝らした活動紹介が、持ち時間各10分で行われました。昨年からの入居した団体は初の活動発表会。しかし、さすがは百戦錬磨

のNPO。人前で活動発表をする機会が多いため、いずれの団体も、短い時間の中でも上手に自分たちの団



体を紹介します。休憩を兼ねたティータイムを挟んで行われた発表は、終始和気あいあいとした雰囲気、無事終了。

いろいろな場面でプラザを支えてくださる町内会のみなさんも、4月でいくつかの団体が入れ替わり、来年は、また新たな顔ぶれでの発表会となります。今年、ご覧になった方もなれなかった方も、ぜひ、来年は(も)ご参加ください。さまざまな分野の団体が発表をしますので、NPOに興味を持ち始めた方にもお薦めですよ。

ユニバーサルファッション工房繕の巻

こうぼうぜん

オシャレと着やすさの両立は誰もが望むところです。しかし、加齢や障がいによって身体を思うように動かせない人が、両者をみたく洋服に出会うことは、まずあり得ません。

今回ご紹介の「工房繕」は、腕を挙げにくい、膝を曲げにくいといった人でも着やすくオシャレな注文服づくりや、お気に入りの洋服をリフォームするサービスをリーズナブルな料金で提供しています。



NPOショップとして入居して5年。作業場でもあるショップには当時からのメンバーが揃い、県内各地からの注文に対応しています。時には、来店が困難な方のところへ出張していくことも。

「入居団体の助け合いや、県の施設に入居しているという対外的な信用。床面がフラットで車イスや

ベッドでの来店も可能な施設環境など、

さまざまな面でプラザに入居できて良かった。この5年間で土台ができたので、次はステップアップ！」



と話すのは、代表の佐藤萬里子さん。次に思い描くのはバリアフリーな洋服サロンです。生活の中で見かけなくなった針仕事を子どもや若者に伝えるとともに、地域の人誰でも立ち寄れる居場所づくりをめざします。

実は、プラザの入居期間は3月で終了。そのため目下の悩みのタネは、工房とサロン活動を始める新拠点探し。どこか心当たりのある方は、ぜひご一報ください。

新しい拠点が整い次第、洋服づくりとサロンの融合で人や地域を元気にする、工房繕の新たな活動が始まります。

